

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

記入日 2019年 3月 20日

法人名	湘南乃えん株式会社	代表者	甲斐 裕章	人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症や重篤な疾患があっても、本人・家族の望む在宅生活を継続できるように支援する。 ・四季を大切にし、季節感を感じられるよう外出の機会を多くもつようになっている。
事業所名	湘南ケアホームえん	管理者	八幡 雅冬		

出席者	市町村職員	知見を有する者	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	3人	3人	0人	2人	0人	4人	0人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	4月・5月において会議の場を活用し、評価項目を事前周知し、取組みを行うようにする。	事業計画を基に取り組みについて、会議内で、全職員へ周知・共有を図ることが出来た。	取組みが事業計画で明確に解りやすかった。四半期ごとに進捗を振り返ると、より計画に沿ったものとなるのでは。	事業計画は四半期ごとに振り返り、進捗状況を確認し、各職員が取組みの成果を感じ取れるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	整理・整頓をはじめ、設備に関しての不備を明確にし、適切に改修を行う。	利用者が過ごすフロアや居室内の整理に限らず、玄関口および事務所内における整理・整頓を行った。	誰もが、施設へ相談等で訪れることが出来る事の周知には、定期的な施設開催イベント時に別途相談コーナー等を設けてみては。	施設開催イベント時に、介護相談コーナー、若しくはチラシの配布といったものを検討し、地域の施設活用の認識を高める。
C. 事業所と地域のかかわり	職員と地域の方のかかわりが持てるようになっており、次年度は高齢者と地域の関りの機会へと思考をもつようにする。	定期的な施設催しのほか、地域の困っている（花火実施場所）などの相談に応じることが出来た。	スライム作りなどで子供達が施設に遊びに行く姿を拝見している。	夏休み期間の子供達が、施設を利用して宿題や水分補給、トイレ等で出きりできる形を検討する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	ボランティアの活用や、制度について改めて確認を行い、認識不足により提案ができないということが無いように備える。	昨年までは、施設管理者のみが地域催しに出席していたが、本年については、地域災害訓練をはじめ、様々な企画に参加できた。	もっともっと、社会資源を有効活用していけるかと思う。まだ自職員のみで何とかしようとしており、手が足りていないのでは。	施設がある地域だけに目を向けるのではなく、施設を利用する方の地域の情報も認識し、個々の地域に向けるように取り組む。
E. 運営推進会議を活かした取組み	より多くの知恵や意見が頂けるよう、参加しやすい時間帯、曜日の検討をはかり、対応する。	報告様式を変更し、誰にでも解りやすいものとした。また、実施曜日や時間帯もそれぞれの日取りをもって実施ができた。	時間・曜日・開催場所など工夫はされているが、毎回同じ者の出席となっているように思う。	もっと家族参加が得られるよう、会議に付随して、交流できるイベント・機会とあわせた開催を検討する。
F. 事業所の防災・災害対策	30年度内に、3日分の食糧確保から、1週間程度の確保へとする。また、職員分を含め準備しておくようにする。	非常災害時における食糧について、6日分の確保ができた。また、トイレ（排泄）凝固剤の確保も行う事が出来た。	避難訓練については、近隣等に適切に事前周知をはかり、訓練に地域の方が参加できるような案内をしてみても。	避難訓練を施設職員のみで行うのではなく、あらゆる社会資源を活用し有事に応じられるよう検討する。